

報道関係者各位

PRESS RELEASE

2024年2月21日

株式会社 向新(むかしん)

コンクール/小学生/大阪

12周年でのべ4万人の小学生が参加、表現力豊かな子どもを応援！ 第12回「あのね文庫詩コンクール」表彰式、2月23日(金・祝)開催

今年で12年目。応募作品は40,000を超えた！小学生が“今”しか出来ない表現を分かち合う！

「あのね文庫詩コンクール」は約50年前に神戸で、故鹿島和夫先生が産んだ「あのね教育」の歴史を鹿島先生生誕の地、泉佐野で繋ぎ続けている。

一般社団法人泉佐野市文化振興財団と株式会社向新（住所：泉佐野市羽倉崎1-5-10、代表取締役社長：向井新将）は2024年2月23日(金・祝)、今年12回を迎える「あのね文庫詩コンクール」の表彰式を開催する。

2年前の第10回では大人になった第1回の受賞者の声を紹介。動画を通じて自身が小学生だった時の受賞の喜びが「教師になりたい」と言う夢を抱くきっかけになったエピソードを語った。実際にその夢を掴み取った岡田さんは10年後の受賞者たちへ激励の言葉を添えて教師になるまでの道のりを伝え、受賞者たちの目は輝いた。

「あのね文庫詩コンクール」は、子どもの豊かな表現力を育てる「あのね教育」の創始者で、泉佐野市出身の鹿島和夫先生の思いを伝え、子どもたちの豊かな心を育み続けるため泉佐野市文化振興財団と共催で開催。

「あのね教育」とは「せんせい、あのね」と話すように、子どもたちのものを見たもの、聞いたこと、思ったこと、感じたことなどを素直な表現で、文章に書き表す力を引き出す鹿島和夫先生独自の教育方法だ。

当社の120周年を機に地元への恩返しをさせていただこうと2012年に初開催し、今年で12回目を迎えた。「地元の子どもの感性や情操を高め、心からあふれ出る豊かな表現力を育みたい」と、毎年、大阪南部・泉州地域を中心とした地域の小学生から詩を募集。今回は泉佐野市、熊取町、泉南市始め、堺市など20の小学校から、3,419点の作品が寄せられた。これまでの参加者はのべ4万人を超える。

最優秀賞受賞者には、鹿島先生とともにコンクールを立ち上げに携わったアナウンサーによる「緊張を伝える力に変える話し方」が伝授され、表彰式の最後に観客の前で受賞作品を朗読する。

